

2022 年度  
令和 4 年度  
事業報告書

公益財団法人 水産無脊椎動物研究所

## 2022 年度 事業 報告

### I. 事業の状況

2022 年度の事業計画に従い「助ける」「集める」「広める」事業を行った。研究者・学生の調査研究活動は徐々にコロナ禍以前の状況に戻りつつあり、概ね順調に実施され、イベントも 3 年ぶりに実施した。

#### 1. 「助ける」研究助成事業

2022 年度の研究助成応募数 70 課題（個別研究 50、育成研究 20）から、採択した 14 課題（個別研究 10、育成研究 4）、および育成研究 2 年目の 4 件に対して 4 月中旬、助成金 1,4529,000 円を交付した。これによりこれまでに助成した課題数は 267 課題、助成金額の累計は 278,779,000 円となった。

上記課題は、新型コロナウイルスや物価上昇の影響を受けたものの、おおむね順調に研究を進めた。これまでに延長中であった 8 課題もおおむね完了する予定である。

現体制の専門委員のもと、これまでに行ってきた募集要項記載事項の追加（採捕許可をはじめとする法令等への対応を促す記述など）や、審査結果通知への専門委員評価コメント付記等、積極的に応募の質と量を向上させる取り組みを引き続き行った。これにより、申請書の質が向上しつつある。報告書についても同様にコメントの通知等を行った。

#### 2. 「集める」研究情報・資料・論文の収集、図書の交換、学会の聴講等

(1) 軟体動物後鰓類(ウミウシ類)を中心とする水棲の無脊椎動物に関する研究情報と画像等、近年出版された研究情報や論文などを収集した。これまでに撮影した画像の整理と同定を進め、一部はウェブサイトの図鑑にアップした。

#### (2) 資料・論文の収集と保管

今年度は茨城県ひたちなか市の生物分布情報を収集した。現在、茨城県自然博物館と出版物を準備中である。また、収集した画像を保管し、一部はウェブサイトの図鑑に追加した。

#### (3) 学会等の聴講

水棲の無脊椎動物全般の研究情報を収集するため、以下の学会年会、シンポジウムおよび講演会に参加し、情報を収集した。

日本動物分類学会大会、日本動物学会早稲田大会、日本甲殻類学会大会、沖縄生物学会、日本付着生物学会 50 周年シンポジウム、第 21 回日本分類学会 連合公開シンポジウム、藤原ナチュラルヒストリーオンラインシンポジウム。その他、オンライン研究会などに参加した。

一部、対面開催が再開された学会もあるものの、新型コロナウイルス感染

症対策のため、オンライン形式で開催される学会・研究会もあり、遠方で参加しにくいシンポジウムや研究会等にも参加することができた。新しい研究情報を得て、そのうちのいくつかについて「うみうし通信」に執筆依頼し、掲載した。

### 3. 「広める」研究情報や海の無脊椎動物の知識を普及啓発すること

#### (1) 機関誌「うみうし通信」の発行

当財団の機関誌であり、博物館・研究所等との交換図書にもなっている。今年度は No. 115～No. 118 までの 4 号を発行した。

印刷部数は 1,000 部、配布部数は約 700 部、うち、有料配布は「うみうしくらぶ」会員。無料配布は、国会図書館、官公庁、試験研究機関、博物館、水族館、大学などの図書交換先、および寄付者、財団賛助会員、財団関係者などである。

また、情報をより一般にも広めるため、著者の同意が得られ、発行後 1 年が経過したバックナンバーを、財団 WEB サイトで公開している。今年度は No. 111～114 を公開した。

#### (2) 「うみうしくらぶ」会員および財団賛助会員の維持と発展

うみうしくらぶの期末会員数は 253 名。法人会員は 8 団体、個人会員 245 名となった（個人会員の新加入 7 名、退会 12 名〔会費長期未納者含む〕、賛助会員への移行 5 名）。新入会も順調に続いており、うみうし通信のレイアウト刷新やホームページでのバックナンバーの公開、SNS による広報の効果などによるものと考えられる。新規入会には 10～20 代が 4 名、30～40 代が 2 名含まれ、若い世代の入会が続いている。

昨年度末に開始した財団賛助会員は 2022 年度末に 25 名となった（うち新規登録が 1 名、「うみうしくらぶ」会員からの移行が 5 名）。

両会員の合計は、278 名（法人 8 団体を含む）となった。

#### (3) 子供向けおよび大人向けの観察会の実施

新型コロナウイルスの影響で見送っていた 2 つの観察会を 3 年ぶりに開催した。

子供を対象とした海の生物観察会「第 14 回親子で楽しむ海の生き物わくわくウォッチング」は 5 月 21 日（土）に開催した。観音崎自然博物館のスタッフに当日進行いただき、磯の観察と海藻の標本作りを行った。参加者はコロナウイルス感染症対策のため、例年より定員を減らして実施し、参加者は 30 名（大人 21 名、中学生以下 9 名）であった。当日は潮がよく引いたことと、曇天で観察がしやすく、多数のウミウシをはじめ、多くの生物が観察できた。

大人向け観察会「ウミウシの観察」を 6 月 18 日（土）に横須賀市自然・人文博物館付属 天神島臨海自然教育園（神奈川県）にて実施した。例年は宿泊開催の、磯の生物勉強会を日帰りイベントとして、「ウ

ミウシ」に絞った観察会を行った。参加者は中学生以上 20 名であった。横須賀市自然・人文博物館の学芸員である萩原清司氏に講師をお願いし、後鰓類（ウミウシ類）の講義、および、磯に出てのウミウシ探しとその他の生物の観察を行った。ウミウシ類は多数観察することができ、15 種（と 1 色彩変異型）を観察した。最後にオプションとして、天神島の散策を行い、地質や植物についての説明を受けた。遠方からの参加もあり、好評であった。

#### (4) 財団 WEB サイトの拡充

WEB サイトにて 2022 年度研究助成採択課題および財団の情報公開をすみやかに行った。サイトコンテンツの更新を進め、うみうし通信の過去 PDF の順次公開や図鑑写真の見直しなどを進めた。

#### (5) 生物分布情報の活用

財団が保管する生物の分布情報について、2020 年度より海洋研究開発機構（JAMSTEC）を窓口とする国連ユネスコ傘下の国際的なデータベース（OBIS）へのデータ提供を開始している。本年度はデータの整理と準備を行なった。

#### (6) 他機関との協力

国立科学博物館特別展「毒」への標本貸し出しや、展示解説書への写真提供などの協力を行った。群馬県自然史博物館の第 67 回企画展「毒のある生きもの大図鑑」へ標本貸し出しを行った。

## II. 財団の運営

### 1. 理事会

#### ● 第 1 回理事会 2022 年 5 月 27 日

決議事項 ・ 2021 年度事業報告及び収支決算について  
・ 定時評議員会の開催について

報告事項 ・ 代表理事及び業務執行理事の職務執行の状況報告  
・ その他の報告事項

決議 決議の省略手続きによる  
理事 7 名全員からの同意および監事 1 名から異議が無かった  
ので理事会決議があったものとみなされた。

#### ● 第 2 回理事会 2022 年 6 月 9 日

決議事項 ・ 代表理事及び業務執行理事の選任について

報告事項 ・ 代表理事及び業務執行理事の状況報告  
・ その他の報告事項

決議 決議の省略手続きによる  
理事7名全員からの同意および監事1名から異議が無かった  
ので理事会決議があったものとみなされた。

●第3回理事会 2023年3月14日

決議事項 ・2023年度 事業計画及び収支予算  
・2023年度 研究助成課題の決定  
・基本財産の除外  
・評議員会の開催  
・専門委員の委嘱

報告事項 ・代表理事及び業務執行理事の状況報告  
・その他の報告事項

決議 決議の省略手続きによる  
理事7名全員からの同意および監事1名から異議が無かった  
ので理事会決議があったものとみなされた。

2. 評議員会

●定時評議員会 2022年6月9日

決議事項 ・2021年度事業報告及び収支決算の報告

決議 ・評議員全員から書面による同意の意思表示を得たので決議事項を可決する旨の評議員会の決議があったものとみなされた。

●第2回評議員会 2023年3月20日

決議事項 ・2023年度事業計画及び収支予算  
・基本財産の一部除外について

決議 ・評議員全員から書面による同意の意思表示を得たので決議事項を可決する旨の評議員会があったものとみなされた。

3. 専門委員会

●第1回専門委員会 2022年8月30日

Zoom オンライン会議により実施

議 題 2023年度助成課題募集要項の決定

2019、2021年個別（期間延長）および2022年度個別研究助成報告書の評価

●第2回専門委員会 2023年2月27日

オフィス東京D会議室にて対面で実施

議 題 2023 年度研究助成課題の審査  
理事会への推薦課題の決定

4. 事務的事項

1. 内閣府への提出と届出

2022 年 6 月 17 日 「事業報告等の提出」電子申請

2022 年 6 月 23 日 理事等の変更届

2023 年 3 月 24 日 2023 年度「事業計画書等に係る提出書」電子申請

2. 公告（情報公開）

HP上の「2021 年度事業報告書」と「2022 年度事業計画及び収支予算」を更新した。

3. 「広める」告知など

2022 年度研究助成の採択課題を WEB サイトとうみうし通信 No. 115 で公表した。また、研究助成やうみうし通信発行の告知等は SNS（ツイッターと Facebook）を活用して広報した。

4. 新型コロナウイルス感染症対策をきっかけとした新規取り組み

新型コロナウイルス感染症対策のため、財団事務局の運営もリモートワークに対応できるようクラウド等の活用を進めてきた。

2022 年度は導入したグループウェアを活用し、電子による会計決裁が行えるよう整備し、より決裁の効率化を図ることができた。

5. 寄付金など

財団 WEB サイト内に開設した「ご支援のお願い」サイトによって、ウェブサイトからの寄付金の受付ができるようになったことで、寄付や賛助会員が増加しつつある。うみうし通信や会員向け書面での案内、SNS でのサイト紹介などの広報活動を行い、総額 426,000 円（前年度からは約 40 万円の減少）の寄付をいただいた（賛助会員の会費による寄付を含む）。

2022 年度は 2 法人、22 名の個人から寄付をいただいた。皆様に謹んでお礼申し上げる（お名前は、ご承諾いただいた方のみ記載）。

株式会社メディックス、株式会社ウジエスーパー、石岡 宏子 様、ほか 1 名  
〔賛助会員〕青山 銀二 様、今野 誠一 様、小川 太遠 様、  
神尾 道也 様、河野 えり子 様、佐藤 正典 様、鈴木 美里 様、  
竹中 伸也 様、田中 正則 様、西川 輝昭 様、本間 拓己 様  
ほか 12 名